



ヘッドセット管理

- [ヘッドセット管理の概要, on page 1](#)
- [ヘッドセット管理の機能の互換性, on page 1](#)
- [ワークフロー: ヘッドセット有用性の構成, on page 4](#)
- [ヘッドセット テンプレート管理, on page 9](#)
- [Firmware Management, on page 15](#)
- [ヘッドセット インベントリの管理, on page 16](#)
- [ヘッドセット トラブルシューティングと診断, on page 19](#)

ヘッドセット管理の概要

- ワイヤレス電源範囲、オーディオ帯域幅、および Bluetooth のオン/オフをリモートで構成します。
- ヘッドセットのファームウェアを定義および制御します。
- 展開内のすべてのヘッドセットの詳細なインベントリを取得します。
- Remote PRT、Call Management Records (CMR) のメトリクスおよびアラームを使用して、ヘッドセットの診断およびトラブルシューティングを行います。

ヘッドセット管理の機能の互換性

シスコヘッドセットの管理は、次のリリースから Unified Communications Manager でサポートされています。

- 11.x リリース用 リリース 11.5 (1) SU7
- 12.x リリース用 リリース 12.5 (1) SU1

Unified Communications Manager のバージョンと共に、機能サポートはシスコヘッドセット、Cisco IP 電話、および Cisco Jabber のファームウェアバージョンに依存しています。次の表に、使用す

るヘッドセット、電話、およびユニファイドコミュニケーションマネージャの各バージョンに応じて使用可能なヘッドセット管理機能を示します。

**Note**

シスコヘッドセットの管理機能は、12.0(x)または12.5(1)ではサポートされていません。旧バージョンでは、IP電話用のヘッドセット設定テンプレートを defaultheadsetconfig.json 設定ファイルと TFTP を使用して手動で送信できるように制限されている場合があります。詳細については、「ヘッドセットのアドミニストレーションガイド」を参照してください。

Table 1: Cisco IP Phone のヘッドセットの有用性機能

新しい有用性機能	ユニファイド CM 12.5 (1) 以前 + 電話機ファームウェア 12.1 (1) 以前	Unified CM 12.5 (1)SU1 以降** + 電話機ファームウェア 12.1 (1) 以前	ユニファイド CM 12.5 (1) 以前 + 電話機ファームウェア 12.5 (1)	Unified CM 12.5 (1)SU1 以降** + 電話機ファームウェア 12.5 (1)	ユニファイド CM 12.5 (1) またはそれ以前 + 電話機ファームウェア 12.5 (1) SR3	Unified CM 12.5 (1)SU1 以降** + 電話機ファームウェア 12.5 (1)SR3
COP ファイルのインストールが必要	X	X	X	X	X	—
手動によるリモート設定	—	—	X	なし	X	—
ユニファイド CM でのヘッドセットファームウェアの管理	—	—	—	—	—	X
ユニファイド CM によるリモートヘッドセットの設定	—	—	—	—	—	X
ユニファイド CM のヘッドセットインベントリ	—	—	—	—	—	X*
電話機の UI での設定のリセット	—	—	—	—	X	X
ヘッドセットコール管理レコード (CMR)	—	—	—	—	—	X*

- * この機能は、ヘッドセットファームウェア 1.5 以降を搭載したヘッドセットでのみ使用できます。
- ** この機能は、12.0.x および 12.5 (1) リリースではサポートされていません。
- 以前のバージョンから Unified CM 12.5 (1) にアップグレードすると、ほとんどの Cisco IP 電話は自動的に Phone ファームウェア 11.5 (1)SU7 以降にアップグレードされます。

Table 2: Cisco Jabber のヘッドセットの有用性機能

新しい有用性機能	ユニファイド CM 12.5 (1) 以前のバージョンのバージョン 12.5 (1) 以前の Jabber	Unified CM 12.5 (1)SU1 + Jabber バージョン 12.5 (1) 以前	ユニファイド CM 12.5 (1) 以前の + Jabber バージョン 12.6 (1)	Unified CM 12.5 (1)SU1 + Jabber バージョン 12.6 (1)	ユニファイド CM 12.5 (1) 以前の + Jabber バージョン 12.6 (1) MR	Unified CM 12.5 (1)SU1 + Jabber バージョン 12.6 (1)MR
COP ファイルのインストールが必要	X	X	X	X	X	X
ユニファイド CM によるヘッドセットファームウェアの管理	—	—	—	—	—	X
ユニファイド CM によるリモートヘッドセットの設定	—	—	—	X	—	X
ユニファイド CM のヘッドセットインベントリ	—	—	—	X*	—	X*
ローカル構成リセット	—	—	—	—	X	X
ローカル UI の設定	—	—	X	X	X	X
ローカルヘッドセットのバージョンの表示	—	—	—	—	X	X

- * この機能は、ヘッドセットファームウェア 1.5 以降を搭載したヘッドセットのみを検出できます。
- **この機能は、12.0. x および 12.5 (1) リリースではサポートされていません。

サードパーティのヘッドセットのサポート

サードパーティヘッドセットを導入している場合、Cisco Unified Communications Manager は、Cisco Unified CM の管理インターフェイスから、サードパーティヘッドセットに関する制限付きの情報によって、ヘッドセットインベントリ管理をサポートします。Cisco Unified Communications Manager は、サードパーティヘッドセット用のヘッドセット設定テンプレート、ファームウェア、診断、およびヘッドセット CMR をサポートしていません。

ワークフロー: ヘッドセット有用性の構成

次のワークフローを使用して、Ciscoヘッドセットの有用性機能のセットアップをガイドします。

このワークフローを完了すると、ヘッドセット設定の構成、ヘッドセット最新ファームウェアロードの保持、ユーザへのヘッドセットの関連付け、ヘッドセットベースのExtension Mobilityの有効化、およびインベントリの保守を行うことができます。

Procedure

	Command or Action	Purpose
Step 1	シスコヘッドセットサービスを有効化する, on page 4	シスコの統合された有用性でシスコヘッドセットサービスをオンにします。
Step 2	ヘッドセットCOPファイルを準備する, on page 5	COPファイルを使用して、最新のヘッドセットファームウェアをインストールしてアップグレードしていることを確認してください。
Step 3	ヘッドセットユーザ用のユーザプロファイルの設定, on page 6	ユーザのユーザプロファイルがまだ設定されていない場合は、次の手順を使用してプロファイルを設定します。ユーザプロファイルがすべて設定されている場合は、このタスクをスキップできます。
Step 4	エンドユーザにユーザプロファイルを適用する, on page 8	ユーザプロファイルをエンドユーザに割り当てます。すでにユーザプロファイルが割り当てられている場合は、このタスクをスキップできます。
Step 5	ヘッドセットテンプレートの設定, on page 14	シスコヘッドセットテンプレートのデフォルト設定とファームウェアを設定します。そのユーザプロファイルを使用しているユーザがこのヘッドセットテンプレートに割り当てられるように、ユーザプロファイルをテンプレートに関連付けます。
Step 6	ヘッドセットインベントリの表示, on page 17	Cisco Unified CM インターフェイスを使用して、展開したヘッドセットインベントリを確認できることを確認します。

シスコヘッドセットサービスを有効化する

Cisco Unified CM の管理インターフェイスを使用してシスコヘッドセットとアクセサリを管理する前に、Cisco Unified Communications Manager Serviceabilityで をオンにする必要があります。



- (注) Cisco CallManager サービスが既に実行されている場合は、すべてのユニファイドコミュニケーション マネージャノードでシスコ ヘッドセットサービスをアクティブにする必要があります。Cisco Unified CM の管理インターフェイスを使用してヘッドセットを管理するには、ユニファイドコミュニケーション マネージャノード上でシスコ ヘッドセットサービスをアクティブにしてください。Cisco CallManager サービスは、シスコ ヘッドセットサービスを有効にすると自動的にアクティブになります。必要でない場合は、Cisco CallManager サービスを非アクティブにします。

手順

- Step 1** Cisco Unified CM 管理から **Cisco Unified Serviceability** へ移動して **Go** をクリックします。
- Step 2** [ツール (Tools)] > [サービスのアクティベーション (Service Activation)] を選択します。
- Step 3** CM Services セクションの [シスコ ヘッドセットサービス] チェックボックスをオンにして、[保存 (Save)] を選択します。

次のタスク

ヘッドセット COP ファイルを準備します。

ヘッドセット COP ファイルを準備する

COP ファイルを使用して、最新のヘッドセットファームウェアをインストールし、アップグレードすることができます。ヘッドセット COP ファイルには、様々なヘッドセットモデルのファームウェアバージョンと構成データがすべて含まれています。



- (注) COP ファイルをインストールする前に、シスコ ヘッドセットサービスが起動され、実行されていることを確認してください。

ヘッドセット COP ファイルが、Unified Communications Manager のすべてのノードにインストールされていることを確認します。

1. シスコ ヘッドセットを使用を開始する前に、COP ファイルを Unified Communications Manager システムにインストールまたはアップグレードします。

ヘッドセットをエンドポイントに接続すると、ヘッドセットテンプレートの構成の変更が適用されます。Unified Communications Manager のヘッドセットテンプレート構成にアップデートを行った場合、エンドポイントは、接続されたヘッドセットにこれらの構成の更新内容を適用します。

すべての構成の更新は、COP ファイルのヘッドセットテンプレートのバージョンによって異なります。ヘッドセットテンプレートバージョンが最新の COP ファイルの上位にある場合、Unified Communications Manager の構成ファイルが更新されます。COP ファイルの構成ファイルがアップ

グレードされると、Unified Communications Manager のヘッドセットテンプレートバージョンはテンプレートのバージョンに関係なく更新され、その逆も同様です。次の一覧は、COP ファイルのアップグレード後の様々なテンプレートバージョンの更新シナリオを示しています。

- Unified Communications Manager が、ヘッドセットテンプレートバージョン 1-10 でインストールされている場合は、ヘッドセットテンプレートバージョン 1-12 の Unified Communications Manager サーバをアップグレードすると、選択したヘッドセットテンプレートバージョンが 1-12 になります。Unified Communications Manager は、より高いヘッドセットテンプレートバージョンを選択します。
- Unified Communications Manager が、ヘッドセットテンプレートバージョン 1-10 でインストールされている場合は、ヘッドセットテンプレートバージョン 1-9 の Unified Communications Manager サーバをアップグレードすると、選択したヘッドセットテンプレートバージョンが 1-9 になります。Unified Communications Manager は、より高いヘッドセットテンプレートバージョンを選択します。
- Unified Communications Manager が、ヘッドセットテンプレートバージョン 1-10 でインストールされている場合は、ヘッドセットテンプレートバージョン 1-12 の Unified Communications Manager サーバをアップグレードすると、選択したヘッドセットテンプレートバージョンが 1-12 になります。COP ファイルと一緒にインストールされるヘッドセットテンプレートが推奨オプションです。
- Unified Communications Manager が、ヘッドセットテンプレートバージョン 1-10 でインストールされている場合は、ヘッドセットテンプレートバージョン 1-9 の Unified Communications Manager サーバをアップグレードすると、選択したヘッドセットテンプレートバージョンが 1-9 になります。COP ファイルと一緒にインストールされるヘッドセットテンプレートが推奨オプションです。
- ヘッドセットテンプレートバージョンが 1-12 の COP ファイルをインストールし、ヘッドセットテンプレートバージョン 1-10 の Unified Communications Manager サーバを更新すると、選択したヘッドセットテンプレートバージョンは 1-12 になります。Unified Communications Manager は、より高いヘッドセットテンプレートバージョンを選択します。

ヘッドセットユーザ用のユーザプロファイルの設定

ユーザのユーザプロファイルがまだ設定されていない場合は、次の手順を使用してプロファイルを設定します。ヘッドセットのテンプレートは、ユーザプロファイルを使用してユーザに割り当てられます。すでにユーザプロファイルが設定されている場合は、このタスクをスキップできます。



- (注) 導入要件に応じて異なるユーザのグループに複数のユーザプロファイルを構成します。デフォルトでは、すべてのユーザプロファイルがシステムのデフォルトヘッドセットテンプレートに割り当てられます。ヘッドセットのテンプレートを設定する場合は、カスタマイズされたテンプレートに割り当てることができます。

手順

- Step 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[ユーザ管理] > [ユーザ設定] > [ユーザ プロファイル] を選択します。
- Step 2** [新規追加] をクリックします。
- Step 3** ユーザ プロファイルの [名前 (Name)] および [説明 (Description)] を入力します。
- Step 4** [ユニバーサル デバイス テンプレート (Universal Device Template)] を、ユーザの [デスク フォン (Desk Phones)]、[モバイルおよびデスクトップ デバイス (Mobile and Desktop Devices)]、および [リモート接続先/デバイス プロファイル (Remote Destination/Device Profiles)] に割り当てます。
- Step 5** [ユニバーサル回線テンプレート (Universal Line Template)] を割り当て、このユーザプロファイルのユーザの電話回線に適用します。
- Step 6** このユーザプロファイルのユーザに自分の電話機をプロビジョニングするセルフプロビジョニング機能の使用を許可するには、次の手順を実行します
- [エンドユーザの電話機のプロビジョニングを許可 (Allow End User to Provision their own phones)] のチェックボックスをオンにします。
 - [エンドユーザがプロビジョニングする電話機数を制限 (Limit Provisioning once End User has this many phones)] フィールドに、ユーザがプロビジョニングできる電話の最大数を入力します。最大値は 20 です。
- Step 7** このユーザプロファイルに関連付けられた Cisco Jabber ユーザがモバイルおよびリモートアクセス機能を使用できるようにするには、[モバイルおよびリモート アクセスの有効化] チェックボックスをオンにします。
- (注) デフォルトでは、このチェックボックスはオンです。このチェックボックスをオフにすると、[Jabber ポリシー (Jabber Policies)] セクションが無効になり、サービスクライアントポリシーオプションは、デフォルトで選択されません。
- (注) この設定は、Cisco Jabber ユーザの場合にのみ必須です。Jabber ユーザではない場合、この設定を行わずともモバイルおよびリモートアクセス機能を使用できます。モバイルおよびリモートアクセス機能は、Jabber モバイルおよびリモートアクセスのユーザにのみ適用され、他のエンドポイントやクライアントには適用されません。
- Step 8** このユーザプロファイルに Jabber ポリシーを割り当てます。[Jabber デスクトップクライアントポリシー (Jabber Desktop Client Policy)] と [Jabber モバイルクライアントポリシー (Jabber Mobile Client Policy)] のドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。
- サービスなし: このポリシーは、すべての Cisco Jabber サービスへのアクセスを禁止します。
 - IM とプレゼンスのみ: このポリシーは、インスタントメッセージとプレゼンス機能のみを有効にします。
 - IM とプレゼンス、音声とビデオ コール: このポリシーは音声やビデオ デバイスを使うすべてのユーザに対して、インスタントメッセージ、プレゼンス、ボイスメールと会議機能を有効化します。これがデフォルトのオプションです。
- (注) Jabber デスクトップクライアントには Windows 版 Cisco Jabber および Mac 版 Cisco Jabber が含まれています。Jabber モバイルクライアントには、iPad/iPhone ユーザ用 Cisco Jabber および Android 版 Cisco Jabber が含まれています。

Step 9 このユーザプロフィールのユーザが Cisco Unified Communications セルフケア ポータルで Extension Mobility または Extension Mobility Cross Cluster の最大ログイン時間を設定するには、[エンドユーザにエクステンションモビリティの最大ログイン時間の設定を許可する (Allow End User to set their Extension Mobility maximum login time)] チェックボックスをオンにします。

(注) デフォルトでは[エンドユーザにエクステンションモビリティの最大ログイン時間の設定を許可する (Allow End User to set their Extension Mobility maximum login time)] チェックボックスはオフになっています。

Step 10 [保存] をクリックします。

エンドユーザにユーザプロフィールを適用する

作成したユーザプロフィールにユーザを関連付ける。このユーザプロフィールはエンドユーザに関連付けられている必要があり、ヘッドセットのテンプレート構成の変更を適用するには、デバイスの MAC を制御されたデバイスの下に追加する必要があります。



(注) すべてのユーザがすでにユーザプロフィールに割り当てられている場合は、このタスクをスキップできます。

手順

- Step 1** Cisco Unified Communications Manager のデータベースに新しいエンドユーザを手動で追加するには、次の手順を使用します。
- Cisco Unified CM 管理** で、[ユーザの管理 (User Management)] [エンドユーザ (End User)] を選択します。
 - [新規追加] をクリックします。
 - ユーザの **ユーザID** と姓を入力します。
 - ドロップダウンリストから [ユーザランク (User Rank)] を選択します。
 - [エンドユーザ設定 (End User Configuration)] ウィンドウのフィールドを設定します。フィールドの説明については、オンラインヘルプを参照してください。
 - [保存 (Save)] をクリックします。
- Step 2** デバイスにエンドユーザを関連付けるには、次の手順を実行します。
- Cisco Unified CM 管理で、[デバイス (Device)] [電話 (Phone)] を選択します。
 - Cisco IP 電話 または デバイスを選択します。
 - [デバイス情報 (Device Information)] で、[ユーザ (owner)] を選択し、所有者ユーザ ID を選択します。

- d) 構成の変更を有効にするには、[保存して構成を適用 (Save and Apply Config)] をクリックします。

ヘッドセットテンプレート管理

Cisco Unified Communications Manager のユーザプロファイルにヘッドセットテンプレートを割り当て、ユーザのデフォルトのヘッドセットを設定できます。ヘッドセットテンプレートには、ユーザプロファイルを関連付けるオプションがあります。Unified Communications Manager は、次のタイプのヘッドセットテンプレートをサポートしています。

標準デフォルトヘッドセット構成テンプレート

これは、すべてのヘッドセットモデルシリーズの工場出荷時のデフォルト設定を含むシステムのデフォルトテンプレートです。このテンプレートには、すべてのヘッドセットモデルシリーズについて、システムにインストールされている最新のヘッドセットファームウェアでサポートされているヘッドセット設定が含まれています。プロファイル設定を変更することはできますが、デフォルト設定は編集できません。



Note 標準デフォルトヘッドセット設定テンプレートが作成されるのは、シスコヘッドセットサービスが Cisco Unified Serviceability ユーザインターフェイスでアクティブになっている場合のみです。

デフォルトでは、管理者がこれらのユーザプロファイルをカスタム定義されたヘッドセットテンプレートのいずれかに関連付ける場合を除き、すべてのユーザプロファイルが標準のヘッドセットテンプレートに関連付けられます。標準のデフォルトのヘッドセットテンプレートのコピーを作成して、ヘッドセットファームウェアバージョンを含むパラメータのカスタマイズされた値を使用してカスタムテンプレートを作成できます。

システムによって生成されたカスタムヘッドセットテンプレート

完全なシスコヘッドセットサービスアビリティ機能をサポートしていない一部の以前のリリースでは、管理者が defaultheadsetconfig.json 設定ファイルと TFTP を使用してヘッドセットテンプレートを手動で設定および導入することができます。以前のリリースでこの方法を使用した後でこのリリースにアップグレードした場合、設定ファイルはシステムによって生成されたカスタムヘッドセットテンプレートに変換され、[ヘッドセットテンプレートの設定(Headset Template Configuration)] ウィンドウに表示されます。このカスタムテンプレートには、設定ファイルを使用したユーザとデバイスが、アップグレードの後に関連付けられます。

カスタムヘッドセット構成テンプレート

Cisco Unified CM の管理から、デバイス > ヘッドセット > ヘッドセットテンプレートウィンドウを使用して、導入要件に従ってヘッドセットテンプレートをカスタマイズします。同じテンプレート内の異なるモデルに異なるヘッドセットパラメータを割り当てることができます。別のヘッ

ドセットモデルに異なるファームウェアロードを割り当てることもできます。カスタムヘッドセットの設定は、ユーザプロファイルをカスタムヘッドセットテンプレートに関連付けることによって、特定のユーザのセットに割り当てることができます。

Table 3: ヘッドセットテンプレート構成の設定

フィールド	説明
ヘッドセットテンプレートの設定	
名前	一意の名前を入力して、ヘッドセットテンプレートを識別します。
説明	テンプレートの使用を識別できる説明を入力します。
モデルとファームウェアの設定	
モデルシリーズの選択	デバイスに対して信頼性の高い高品質のサウンドを提供する、サポートされているヘッドセットモデルを選択します。
追加 (Add)	<p>標準テンプレートの場合、デフォルトの事前定義されたファームウェアバージョンとヘッドセットモデルの設定を表示できます。デフォルト値は編集できません。</p> <p>カスタマイズされたテンプレートの場合は、[追加 (add)] をクリックして新しいヘッドセットモデルと対応する設定を追加します。同じテンプレートに別の既存のヘッドセットモデルを追加することはできません。カスタマイズされたテンプレートには、さまざまなヘッドセットモデルを追加できます。ただし、ヘッドセットモデルごとに使用できるファームウェアは1つだけです。ヘッドセットパラメータの詳細については、次の「ヘッドセットの設定パラメータ」の表を参照してください。</p> <p>標準のデフォルトのヘッドセットテンプレートの設定では、ヘッドセット COP ファイルをインストールするだけで設定を編集できます。</p>
ファームウェア	<p>必要なファームウェアバージョンを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [現在のバージョンのまま (current on current version)]: ヘッドセットを既存のファームウェアバージョンのままにする場合(つまり、ヘッドセットファームウェアバージョンがシステムの最新のファームウェアバージョンにアップグレードされていない場合)は、このオプションを選択します。 • [最新 (latest)]: ヘッドセットファームウェアバージョンをシステムの最新のファームウェアバージョンにアップグレードする場合は、このオプションを選択します。
削除	カスタマイズされたテンプレートの場合、[削除 (Delete)] をクリックしてヘッドセットテンプレートからヘッドセットモデルを削除します。
プロファイルの設定	

フィールド	説明
使用可能なユーザプロフィール	<p>このヘッドセットテンプレートで使用可能な設定済みのユーザプロフィールを一覧表示します。</p> <p>このテンプレートにユーザプロフィールを関連付けるには、プロフィールを選択し、下矢印をクリックして、割り当てられたユーザプロフィールにテンプレートを移動します。</p> <p>Note デフォルトでは、すべてのユーザプロフィールが標準のデフォルトのヘッドセット設定テンプレートに割り当てられます。別のテンプレートにユーザプロフィールを関連付けるには、新しいテンプレートを作成し、ユーザプロフィールを新しいテンプレートに割り当てます。</p>
割り当てられたユーザプロフィール	<p>このヘッドセット設定テンプレートを使用するユーザプロフィールが一覧表示されます。このプロフィールに割り当てられているユーザの場合、このヘッドセット設定テンプレートの設定は、登録時にシスコのヘッドセットに適用されます。</p> <p>矢印をクリックして、[Available User Profiles] リストから新しいユーザプロフィールを追加します。</p>

次の表で、各ヘッドセットテンプレートのパラメータについて説明します。

Table 4: シスコヘッドセット 500 シリーズ

パラメータ	範囲	デフォルト	注記
スピーカーの音量	0~15	7	<p>ヘッドセットのサウンドレベルを制御します。0は低音量、15が最大音量です。</p> <p>オフィス環境でのノイズに基づいて、この設定を構成します。</p> <p>このパラメータは、シスコヘッドセット 500 シリーズのすべてのヘッドセットに適用されます。</p>

パラメータ	範囲	デフォルト	注記
マイクロフォンゲイン	ソフト-ラウド	デフォルト	<p>ゲインは、通話中にユーザが相手にどの程度の音量で声を届けるかを制御します。ソフトにすると音声は小さくなり、ラウドにするとユーザの音声が大きくなることを意味します。</p> <p>オフィス環境でのノイズに基づいて、この設定を構成します。</p> <p>このパラメータは、シスコヘッドセット 500 シリーズのすべてのヘッドセットに適用されます。</p>
側音	オフ-高	低	<p>ヘッドセットを通してユーザが聞くことができる自声の音量を制御します。オフは側音をオフにし、高にするとヘッドセットマイクからより多くの音が返ってくることを意味します。</p> <p>このパラメータは、シスコヘッドセット 500 シリーズのすべてのヘッドセットに適用されます。</p>
イコライザ	ワーム-ブライト	デフォルト	<p>イコライザーの設定を制御します。ワームに設定すると、ヘッドセットの低音が聞こえやすくなります。ブライト設定にすると、ユーザが高音が聞こえやすくなります。</p> <p>このパラメータは、シスコヘッドセット 500 シリーズのすべてのヘッドセットに適用されます。</p>
オーディオ帯域幅	広帯域、狭帯域	広帯域	<p>シスコヘッドセット 560 シリーズの Digital Enhanced cordless Telecommunications (DECT) コーデックを制御します。</p> <p>高密度 DECT 環境では、このフィールドを狭帯域に設定して、シスコヘッドセット 560 を 727 コーデックに制限します。</p>

パラメータ	範囲	デフォルト	注記
Bluetooth	オン、オフ	オン	<p>シスコヘッドセット 560 シリーズ (マルチベース) で Bluetooth の使用を制御します。このパラメータがオフに設定されている場合、ベースはペアリング済みのデバイスすべてを削除します。</p> <p>Note 情報セキュリティが重視されている環境でユーザが操作している場合、Bluetooth を無効にすることができます。</p>
会議	オン、オフ	オン	<p>シスコヘッドセット 560 シリーズでの会議機能の使用を制御します。会議機能では、最大 3 台のゲスト用ヘッドセットを同一ベースに一度にペアリングできます。</p> <p>会議機能の詳細については、シスコヘッドセット 500 シリーズユーザガイドを参照してください。</p>
ファームウェアソース	UCM または Cisco Cloud から許可する (ファームウェアはアップグレードのみ)、UCM のみに制限する (ファームウェアはアップグレードまたはダウングレード可能)	UCM または Cisco Cloud から許可する	<p>ヘッドセットのファームウェアアップグレードソースを制御します。</p> <p>デフォルトでは、ユーザは Unified Communications Manager に接続された Cisco IP 電話または Windows 版 Cisco Jabber または Mac 版 Cisco Jabber を使用してヘッドセットをアップグレードできます。ヘッドセットは、Unified Communications Manager のソースを使用して、ファームウェアの変更のみを受け入れるように制限できます。</p>

パラメータ	範囲	デフォルト	注記
DECT ラジオレンジ	オートレンジ、中距離、短距離	範囲 (中)	<p>シスコヘッドセット 560シリーズとそのベースの最大距離を制御します。</p> <p>デフォルトでは、理想的な条件が揃えばベースは 330 フィート (100 m) 以上の DECT 範囲になります。DECT ラジオレンジを中距離または短距離に構成すると、ヘッドセットベースの消費電力は少なくなりますが、ユーザは通話中、ベースから遠くへ離れることはできません。DECT ラジオレンジを高密度ヘッドセット導入向けに、短距離に構成してください。</p> <p>DECT 導入の詳細については、シスコヘッドセットの導入に関するホワイトペーパー、シスコヘッドセット 560 シリーズの職場での DECT の導入方法を参照してください。</p>

ヘッドセットテンプレートの設定

シスコヘッドセットに適用できるカスタマイズされた設定でヘッドセットテンプレートを設定するには、次の手順を使用します。カスタマイズしたテンプレートを作成するか、またはシステム定義の標準デフォルトヘッドセットテンプレートを使用することができます。



- (注) 標準デフォルトヘッドセット構成テンプレートは、システム定義のテンプレートです。標準デフォルトヘッドセットテンプレートに新しいユーザプロファイルを割り当てることはできませんが、テンプレートを編集することはできません。デフォルトでは、すべてのユーザプロファイルがこのテンプレートに割り当てられています。このテンプレートからユーザプロファイルの関連付けを外すには、プロファイルを新しいテンプレートに割り当てる必要があります。

手順

- Step 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、[デバイス (Device)] [電話機 (Phone)] を選択します。
- Step 2** 次のいずれかを実行します。
- 既存のテンプレートを編集するには、そのテンプレートを選択します。
 - 新しいテンプレートを作成するには、既存のテンプレートを選択し、[コピー (Copy)] をクリックします。既存の設定が新しいテンプレートに適用されます。

- Step 3** テンプレートの[名前 (Name)]と[説明 (Description)]を追加します。
- Step 4** [モデルとファームウェアの設定 (Model and Firmware Settings)]で、カスタマイズしたヘッドセット設定をこのテンプレートに適用するように割り当てます。新しい設定を追加するには、[追加 (add)] ボタンをクリックして設定を構成します。
- Step 5** 上下矢印を使用して、このテンプレートに割り当てたユーザプロファイルを割当済みユーザプロファイルリストに移動します。これらのプロファイルに割り当てられているすべてのユーザは、このヘッドセットテンプレートにも割り当てられます。
- Step 6** [保存] をクリックします。
- Step 7** デフォルトのテンプレート設定に戻るには、[デフォルトに設定 (Set to Default)] ボタンを使用します。
- Step 8** [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。

標準デフォルトヘッドセット構成テンプレートの場合、[構成を適用 (Apply Configuration)] ボタンは次の場合有効になります。

- 割当済みユーザプロファイルリストに追加したユーザが所有するデバイス
- 匿名デバイス

カスタマイズされたヘッドセット構成テンプレートでは、構成を適用ボタンは、割当済みユーザプロファイルリストに追加したユーザが所有するデバイスでのみ有効になります。

Firmware Management

ユニファイドコミュニケーションマネージャに接続されているほとんどの電話機およびデバイスは、Cisco ヘッドセット500シリーズおよびCisco ヘッドセット700シリーズをサポートしています。ヘッドセットを電話機に接続する前に、最新の電話機のファームウェアリリースおよびデバイスパッケージをインストールしてください。ヘッドセットが初めて接続すると、必要なファームウェアがダウンロードされ、アップグレードプロセスが開始されます。

特定のヘッドセットモデルでは、次の2つのファームウェアオプションがサポートされています。

- **[現在のバージョンのまま (current on current version)]**: ヘッドセットを既存のファームウェアバージョンに維持する場合は、このオプションを選択します(つまり、ヘッドセットファームウェアバージョンは最新のシステムファームウェアバージョンにアップグレードされません)。
- **[最新 (latest)]**: ヘッドセットファームウェアバージョンをシステムの最新のファームウェアバージョンと一致させる場合は、このオプションを選択します。このオプションを選択して、最新のファームウェアが現在使用しているものと異なる場合の動作については、以下のポイントを参照してください。

たとえば、アップグレード中に次のようになります。

- 選択したファームウェアオプションとして最新の (1-5-1-10) を選択し、既存のヘッドセットファームウェアが (1-5-1-9) の場合は、アップグレードが行われます。

- 選択したファームウェアオプションに最新(1-5-1PA-10)を選択し、既存のヘッドセットファームウェアが(1-5-1-11)である場合、変更(この場合はダウングレード)が実行されます。
- 選択したファームウェアオプションとして最新の(1-5-1-10)を選択し、既存のヘッドセットファームウェアが(1-5-1-11)の場合、アップグレード(この場合はダウングレード)は行われません。



Note 選択したファームウェアオプションに最新(1-5-1-10)を選択し、既存のヘッドセットファームウェアが(1-5-1-11)である場合、ヘッドセットのバージョンよりも古いバージョンとなるため、アップグレード(この場合はダウングレード)が実行されます。これは既知の制限事項です。

ファームウェアに関する考慮事項

- 標準のヘッドセットテンプレートに割り当てられたユーザは、常に最新のヘッドセットファームウェアと設定を受信します。
- ヘッドセットテンプレート設定(標準とカスタムの両方)に表示される設定は、すべてのヘッドセットモデルシリーズの**最新のファームウェア**に常に設定されます。

ヘッドセットインベントリの管理

Cisco IP Phone は、ヘッドセットが接続状態または切断状態になるたびに、ヘッドセットインベントリデータをユニファイドコミュニケーションマネージャに送信します。ユニファイドコミュニケーションマネージャは、インベントリデータを保存するため、このサーバに展開されているすべてのヘッドセットについて、インベントリの要約レポートまたはカスタムインベントリレポートを生成できます。

レポート情報には、ヘッドセットのシリアル番号とモデル番号、ドッキングステーションの詳細、ファームウェア、使用されている設定テンプレート、ベンダーの詳細、およびデバイスへのヘッドセットの接続ステータスが含まれます。

ヘッドセットインベントリの設定

Cisco Unified CM の管理から、**デバイス > ヘッドセット > ヘッドセットのインベントリ**ウィンドウからサーバに展開されているすべてのヘッドセットの完全なリストを表示できます。この情報を使用して、導入されているすべてのヘッドセットのレポートを生成できます。デバイスのシリアル番号をクリックすると、個々のヘッドセットの詳細がポップアップウィンドウに表示されます。

Table 5: ヘッドセット インベントリの設定

フィールド	説明
シリアル番号 (Serial Number)	ヘッドセットのシリアル番号。この番号は、個々のヘッドセットごとに固有です。 Note シスコ製以外のヘッドセットの場合、デバイス名がシリアル番号として使用されます。複数の電話機で同じ非シスコヘッドセットを使用すると、重複するヘッドセットレコードが作成されます。
モデル	ヘッドセットのモデル番号。
ベンダー	ベンダーの詳細を表示します。
タイプ	ヘッドセット接続の種類（有線、DECTワイアレス、または不明）を示します。
ファームウェア	ヘッドセットの最新のファームウェアロードを表示します。
ユーザ	電話機またはデバイスを使用するエンドユーザの情報を表示します。
テンプレート	ヘッドセット設定テンプレートの名前を表示します。
ステータス (以降)	ヘッドセットのアクティビティステータスが表示されます。接続されているか、切断されている可能性があります。
ドックモデル	ドッキングモデルステーションのタイプが表示されます。
デバイス名 (Device Name)	ヘッドセットが接続されているデバイスの名前。
デバイス モデル	Cisco IP Phone または Cisco Jabber モデル番号を表示します。たとえば、CP-8865 は Cisco IP Phone モデルです。CSF は、Windows 用の Cisco Jabber for Mac または Cisco Jabber のいずれかのデバイスタイプです。
ソフトウェアバージョン	使用されているソフトウェアの最新バージョンが表示されます。これは、電話機のファームウェアまたは Jabber のソフトウェアバージョンです。
ヘッドセットの経過時間 (日数)	ヘッドセットの使用年数を表示します。レコードが削除された場合は、ヘッドセットの使用年数がリセットされます。

ヘッドセット インベントリの表示

サーバに展開されているすべてのヘッドセットの完全なリストを表示できます。この情報を使用して、導入されているすべてのヘッドセットのレポートを生成できます。

Procedure

Step 1 [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。 **デバイス > ヘッドセット > ヘッドセットのインベントリ**。

Step 2 次のいずれかを実行します。

- [検索 (Find)] を選択すると、サーバに展開されているヘッドセットの完全なリストが表示されます。
- 1つ以上の検索条件を検索ボックスに入力し、[検索 (Find)] を選択します。

ヘッドセットインベントリの概要

Cisco Unified CM の管理から、 **デバイス > ヘッドセット > ヘッドセットインベントリの概要 [ヘッドセットインベントリの概要 (Headset Inventory Summary)]** ウィンドウでは、導入済みのヘッドセットの集約概要を表示できます。

モデルごとのヘッドセットインベントリ

フィールド	説明
ヘッドセットモデル	ヘッドセットのモデル番号。
数量	に、導入環境内の各モデルタイプのヘッドセットの数を示します。 Note 数量列にあるリンクをクリックして、モデルタイプ別にフィルタを適用した詳細なヘッドセットインベントリページに移動します。

ステータス別ヘッドセットインベントリ

ヘッドセットモデル、**アクティブ**、**非アクティブ**、または割り当てられていない列のハイパーリンクをクリックして、各ステータスの詳細なヘッドセットインベントリページに移動します。

フィールド	説明
ヘッドセットモデル	ヘッドセットのモデル番号。
アクティブ	ヘッドセットは過去30日以内に接続されています。
非アクティブ	ヘッドセットが過去30日間に接続されていません。
未定義	ユーザ ID がシステムに存在しないか、インベントリレコードにユーザ ID マッピングがありません。

導入されたヘッドセットの集約サマリーを取得する

[ヘッドセットインベントリの概要 (ヘッドセットインベントリの概要)] ウィンドウで、展開したヘッドセットの集約サマリーを表示できます。

Procedure

[Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。 **デバイス > ヘッドセット > ヘッドセットインベントリの概要**。

ヘッドセットインベントリの詳細をモデル別またはヘッドセットステータス別に表示できます。

ヘッドセットトラブルシューティングと診断

Cisco IP Phone に接続されているヘッドセットの問題レポートツール (PRT) ログを収集するために、ユニファイドコミュニケーションマネージャまたは Cisco ユニファイドリアルタイムモニタリングツール (RTMT) を設定できます。PRT には、コール品質、使用されているコーデック、音声設定、ワイヤレス設定、およびアラートログに関するデータが含まれています。

ユニファイドコミュニケーションマネージャは、ヘッドセットのコール診断の詳細を保存しません。Cisco IP 電話は、BYE メッセージまたは BYE メッセージへの 200 OK 応答のいずれかでヘッドセット統計ヘッダーのヘッドセット診断データを送信して、Unified Communications Manager の CMR を更新します。

Cisco IP 電話は、ヘッドセット診断データをユニファイドコミュニケーションマネージャと共有します。この情報は、CMR レコードの以下のフィールドに保存されます。

- SN—ヘッドセットのシリアル番号。
- メトリクス—RSSI フレームエラー、接続ドロップの理由、ビーコンの移動、オーディオ設定、および DECT 帯域幅などのヘッドセットメトリック。

CMR レコードのエクスポートおよび表示方法の詳細については、*Cisco Unified Communications Manager* のコールレポートおよび請求管理ガイドを参照してください。



Note ヘッドセット CMR レコードは、シスコヘッドセット 500 シリーズに適用されますが、700 シリーズには適用されません。

Unified CM でのエンドポイントの PRT を生成する

この手順を使用して、エンドポイントの問題レポートツール (PRT) をトリガーします。

手順

-
- Step 1** Cisco Unified CM 管理から、[デバイス]>[電話機] を選択します。
 - Step 2** [検索 (Find)] をクリックして、ヘッドセットを接続する 1 つまたは複数の電話機を選択します。
 - Step 3** 選択した電話機で使用するヘッドセットの PRT ログを収集するには、[選択対象の PRT を生成する (Generate PRT for Selected)] をクリックします。
 - Step 4** [保存] をクリックします。

Cisco Unified Communications Managerは、SIP Notify メッセージを送信して、電話機のログ収集をリモートでトリガーし、「カスタマーサポートアップロード URL」パラメータで構成されているログサーバにアップロードします。

RTMT でエンドポイントの PRT を生成する

デバイスまたはエンドポイントは、診断およびトラブルシューティング用の重大なイベントごとにアラームを生成します。これらのアラームは、Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool (RTMT) の[トレースコレクション (Trace Collection)]メニュー、または[デバイスモニタリング (Device Monitoring)]メニューで利用可能な問題レポートツール (PRT) を使用して生成されます。

手順

-
- Step 1** [Trace & Log Central]オプションを展開します。
 - Step 2** Trace & Log Central ツリー階層で、**Generate PRT** を選択します。
[PRT の生成ウィザード]が表示されます。
 - Step 3** Cisco Unified CM 管理ユーザインターフェイスの [電話の検索と電話一覧] ページで設定したデバイス名を入力します。
 - Step 4** **PRT の生成** をクリックします。

生成されたレポートは、**Customer support upload URL**にアップロードされます。ダウンロードオプションは、**カスタマーサポートのアップロード URL**パラメータが、Cisco Unified CM 管理のユーザインターフェイスで、エンタープライズ、プロファイル、またはデバイスレベルで構成されている場合にのみ利用できます。

(注) [エンタープライズ(Enterprise)]、[プロファイル(Profile)]、または[デバイス (Device)]レベル構成ページの設定で、カスタマーサポートアップロード URL パラメータを確認します。それ以外の場合、PRT は生成できません。
